

■ 本市におけるOJTの取組事例紹介

大分市教育センターでは、令和3年度において実施後受講者アンケートに特設の質問を設け、本市における校内OJTの取組を把握した。その中から特長的な取組を行っている学校に対し、OJTに係る調査・研究を行い、OJTの効果などを含めた取組状況等について情報収集し、大分大学教育学部の協力を得ながら、よりよい校内OJTの在り方や具体的な取組等について検討を行ってきた。今年度は、以下のOJTの取組の中から3校の取組等について報告する。

■研修に係る取組

○豊府小学校 「メンター研修の実施」

■授業力向上に係る取組

○長浜小学校 「授業改善宣言シートの活用」

■組織編制等の工夫に係る取組

○鶴崎中学校 「各主任に中堅教員等を配置」



■ 「授業改善宣言シート」の活用（長浜小学校）

【取組に至った背景】

- ・ 若手教員の増加や理科の研究指定を受けていることなどから、教員一人一人の授業力向上が長浜小学校の喫緊の課題の一つであった。また、働き方改革等、限られた時間の中で、効率的かつ効果的に授業力向上に取り組んでいく必要性があり、「授業改善宣言シート」を活用した取組を始めた。

【取組の概要】

- ・ 各教員が月ごとに自身の「授業改善に向けて重点的に取り組むこと」を考え、授業改善宣言シートに記入する。全教員の重点項目を研究主任が取りまとめ、掲示する。各教員は、自身が掲げた重点項目を踏まえ、授業改善に取り組み、その「振り返り」を1か月後に授業改善宣言シートに記入する。全教員の振り返りを研究主任が取りまとめ、掲示する。掲示する場所は全教員が必ず目にする印刷機前の掲示板を選定した。この取組を年間7回程度行った。

■ 「授業改善宣言シート」の活用（長浜小学校）

【授業改善宣言シート】

	これから1か月取り組むこと！	ふりかえり
...		
...		
...		
...		
...		



教員の名前

1か月間、自身の授業改善に向けて、重点的に取り組む事項を具体的に記入する。

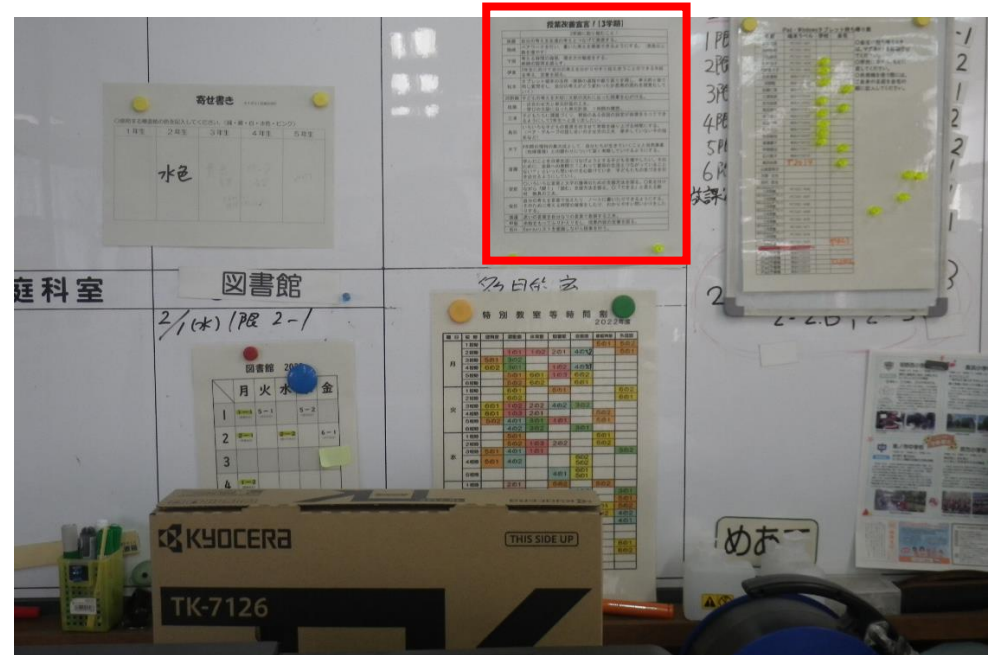
1か月間の自身の取組に対する振り返りを記入する。

「授業改善宣言シート」の活用（長浜小学校）

授業改善宣言！[6月末から7月末]

これから1か月取り組むこと！	ふりかえり
手紙や新聞の世話と観察を通して、植物の成長についての発見や驚きを感じたり共有する。「これは何かな？」「どうなるかな？」「どうして○○かな？」と小さな疑問に1年生なりに、その子ども同様の予想をしながら、楽しんで植物の成長を観察していくことができるようになる。	・葉、実、花などの色や形、数や大きさ（長さ）、手触りなど、いろいろな発見をした。 ・自分で気づくことができなかった子どもは次の日に自分の観察で実証の発表していたことを確かめていた。 ・子どもの口から「なぜだろう？」と出てくることはあまりなかったが、たくさん発見をして、驚いたり、自慢したりしていた。
新聞や手紙の成長をたくさん見ることができるよう活動や体験をさせる。	・新聞の観察日記を書く際に、前回観察した時よりも成長している部分と見つけようとする姿が多く見られた。また、今回の観察では、どのようなになっているのか興味をもつ子どもも増えてきた。
ミニマットの観察を通して、子どもたちの見方がもっと広がらうように授業に取り組む。	観察するときにタブレットを使って写真をとる活動を初めて入れてみた。より詳しく見るできるようになった児童もいたが、それを見ながら見るとどうもではできなかった。
植物や生き物の変化と季節（天気や気温）の関わりについて調べる。	児童に植物の成長と天気や気温の関係について目を向けさせるきっかけはつくれた。写真などを提示して、もっと積極的に伝えるようになった。
「予想」の表現に基づいたものにしていく。子どもたちが自分の見方を考える。	実験を行う單元が一本のみだったが、子どもたちの観察を多く引き出し、予想を多くすることができるようになったと思う。予想自体の見せ方（違いを比較できる）に今後気を付けたい。
第1時から単元の文脈を意識する。読みや振り返りを通して実践する。	第1時から流れをノートや掲示を通して振り返ることで、意識する子が増えた。一方で同のための実験、何が分かればよいのか落ちにくい児童もおり、2学期の課題分けが課題。
課題一予想（検証）一実験一考察一結論の流れを徹底する。	流れは子どもたちの手につけてきた。予想を立てるときに前時までの流れや自分の生活経験、時には疑問や考察を提示する子どもも増えてきた。
子どもたちから出された予想を理科の見方で見取り、整理し、整理する言葉を書ける。	理科の見方で子どもたちの予想を見取ろうとしたが、整理しづらく言葉を書けることができなかった。
「時間的・空間的」な見方を子どもにも動かせるように授業（「目黒」の実証をする。動かせる見方・考え方を子どもにも整理する。	「台風」の学習では、時間によって台風がどのように動くのかを空間的な視点で予想したり、分析したりすることを意識して実践した。季節の変化よりも発達段階の課題の様子で気づかせるように、空間的な見方を動かして問題解決させていた。整理しづらくについてはまだまだ行えなかった。2学期の「流水の動き」で再度意識して整理しつけていきたい。
①実験前に結果の見通しを全体で確認する。 ②子どもたちの理科の見方・考え方を動かせる発表をひろう。 ③単元全体のつながりを感じている児童の考えを積極的にひろう。	①をしたことで子どもが考察をしやすそうだった。 ②については実施できなかった。2学期の課題にしたい。
次の単元で子どもたちのノートや振り返りながら「理科の見方・考え方」が広がるようになる。	「植物の成長と水の関わり」ここでの理科の見方・考え方は「共通性・多様性」「関係づける」「条件を制御する」など、教科書にきちんと書いてくれているので参考にできた。しかし、授業の中で子どもたちの発見や自分が「あ、これだ！」と感じることがまだまだ少ない。「こういうことかな？」と思うがまだまだ自信がない。訓練して自分のいろいろな考えを動かして身に付けていくしかない。
子ども一人ひとりがより小さな変化に気づけるように、良い見方をしたときにほめてあげていくことを大切にしたい。	水循環の学習では、一人ひとりが仮説を立てて考察できたものの、予想と違う反応に対する考察が不十分な児童が多い。どうしてもわかる人に頼りっぱなしになることがある。そのため「なぜ？」と聞きながら考えられるようになるまで粘りこみ立てていきたい。次の単元では時間と流れ、がまんができず教師がたくさん質問してしまったり、しつかりと子どもたちだけ話し合う、考える時間を設けるべきだった。
子どもたちが意味やゴールを意識する授業をする。（生活単元学習における野菜と果物の栽培での取り組み）	ゴール（収穫する喜び）は感じることができたと思う。しかし、意味付けや長期的なモチベーションの持続は課題が残った。（車取りや水やり等の世話）
課題で観察と文章をさがす。野菜の栽培で比較する。	葉っぱの違いを出して、強いよい健康と悪い野菜とを判断していた。自分でわかってうれしそうでした。

6月から7月にかけて取り組んだ「授業改善宣言シート」



3学期、各教員が取り組む重点項目を記入した「授業改善宣言シート」

可視化のための
掲示場所の工夫

■ 「授業改善宣言シート」の活用」（長浜小学校）

【取組の成果】

- ・ 「授業改善宣言シート」が、視覚化されたことにより、常に自身の取組について確認しながら授業改善に取り組むことができ、授業改善のPDCAサイクルの確立へとつながった。
- ・ 若手教員の取組に刺激を受け、授業力をさらに高めていこうとする自身の意欲の向上につながった。
- ・ 全教員が一同に集まる時間を取りにくい状況下において、わざわざ集合しなくても、他の教員の取組等を知ることができ、仕事の効率化にもつながった。
- ・ 「授業改善宣言シート」が校内研究と連動しているため、校内研究の取組が自身の授業力向上につながった。
- ・ 理科を中心とした取組であったが、ここで学んだことが他の教科等の指導にも還元されており、授業に係る総合的な力が身に付いてきたことを実感することができた。
- ・ 教員同士の日頃のコミュニケーションの中に「授業改善宣言シート」の話題が自然と出てくることもあり、本音で他の教員と授業について語り合うことができた。

■ 「授業改善宣言シートの活用」(長浜小学校)

【より効果的な取組に向けて】

◆ 他学年・他教科でも応用可能なものへ

例えば・・・

- ・ 授業準備の時短方法
- ・ 評価方法の改善
- ・ 子どもの意見を可視化するICTの活用 等

<留意点>

過去の情報でも、これまで蓄積したものがよりよい授業改善につながる反面、他学年・他教科でも応用可能な授業改善の取組について、各教員が自分で考えるのは難しい。研究主任などが、複数のテーマを事前に提案し、その中から選択して取り組んでいくことが望ましい。

◆ 「具体的な授業改善の取組」を実践データとして蓄積し、活用できるシステムを構築する

例えば・・・

各教員の授業改善に向けた取組を、次年度以降の教員が活用できることを意識して、提案・実施して、その成果と課題をデータベース化していく。

<留意点>

データとして蓄積するほど、後任の教員の授業が組織的に改善されていく反面、開始初年度は、自分の授業に活用できる情報がないため、教員間で中長期的目標を共有できないと、効果的な継続が望めない。